

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972600050		
法人名	社会福祉法人 光誠会		
事業所名	ケアハウスフローラ		
所在地	栃木県塩谷郡高根沢町上柏崎551-1		
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果市町村受理日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、「ゆっくり、楽しく、めくもりのある生活を送ります。」を運営方針とし、職員は笑顔で入居者の気分、ペースに合わせ穏やかな暮らしが送れるように、支援しています。その為に入居者の方々も表情が明るく落ち着いて生活しています。単調になりやすい施設での生活ですが、当ホームでは生活にメリハリをつけ、気分転換や季節感を感じて頂くために、散歩、買い物、他に園芸ボランティアの協力による季節の野菜作りや、月1回の外出ツアーを企画しています。夕食に行き、自分の好みの物を食べたり、季節の花を観たりし、入居者の方からは楽しそうな笑顔と満足の声を頂いています。地域の方や併設のケアハウス、デイサービス利用者の方々との交流を図る為、合同レクリエーションや多くの行事に参加しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ケアハウスフローラは栃木県の社会福祉法人としては最初に開設されたグループホームである。当初、職員は近隣のゲートボール場に何度も足を運びながら、事業所の地域交流への基盤を作り上げてきた。来年は事業所内にコミュニティーカフェ「けやき館」を開設予定であり、地域に根差し絆を広げている事業所である。
 ・「ありがとうございます、助かります。」という気持ちを自然に伝え合える関係づくりが、理念に掲げる「めくもりのある生活」であるとし、その思いを職員全員が大切に共有している。一人ひとりの生活歴の把握に努め、その方がどのように暮らしてきたか、何を大切にしてきたか、守ってあげることが何かの視点を大切にしながら支援している。
 ・主治医は全員が希望するかかりつけ医となっており、受診時は情報を伝えやすく工夫した受診ノートを使用し連携を図っている。終末期介護に向け、職員は勉強会を行うとともに町職員と看取り等の課題で協力関係を築いている。
 ・ボランティアの協力により選択できるクラブ活動が種々あり、個々の生活の意欲を發揮できる場を作りながら、常に利用者を中心にした支援を大切にしている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成28年12月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に、貼付し、申し送りの時間に唱和して職員の意識を高めている。日常のサービス提供やイベント時等、常に理念である「ゆっくり、楽しく、一緒に・・・」を意識し、利用者のペースに合わせて支援をしている。	理念に掲げられた「ぬくもりのある生活」とは、「ありがとうございます、助かります。」という気持ちが自然に伝え合える関係づくりであるとし、その思いは職員全員で大切に共有している。理念から掘り下げられた事業所の思いの原点が、日々の生活の中で活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会のクリーン活動、アルミ缶回収、敬老会等の行事に参加し協力している。地域の祭りや運動会にも招待されており良い関係作りが出来ている。	天気のよい日の散歩や外出の時に近隣の方と挨拶をかわす等、交流は日常的に行っている。年2回の自治会クリーン活動には地域の方と共に参加し協力している。開所当時の17年前、職員は近隣のゲートボール場に何度も足を運びながら、事業所の地域交流への基盤を作り上げてきた。来年は事業所内に地域交流館が開所予定であり、地域に根差し、絆を広げている事業所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深めて頂けるよう研修会等の活動に取り組んでいる。民生委員を対象にした施設見学会を実施予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月のグループホームでの活動等と入居状況をお知らせ説明して、そこで出席者より意見や要望を聞き、入居者対応に活かし質の向上に取り入れている。	2か月に一度、状況報告や事業所としての取り組み及び課題について話し合い、サービス向上に努めている。会議の内容を広報誌に載せ、参加できない家族にも郵送し内容を伝えている。時には推進会議の会場を法人のケアハウス内のレストランに移し利用者と共にデザート作りを企画し、参加メンバーがより楽しく関わられるよう工夫している。	現在の参加メンバーに加え運営に関する折々の話題に応じて利用者や運営上の支援に役立つと思われる方の出席を要請する等、更なる推進会議の充実を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	懸案事項などは、町担当者や包括支援センターと連絡を取り、その都度解決を図っている。また運営推進会議では、毎回町の担当者が出席され指導を受けている。	事業所の今後の課題である「看取りケア」について町の担当者に相談する等、連携を密にとりながら在宅医療の現状や課題の共有を図り協力関係を築いている。町が医療機関とのパイプ役になり勉強会を開催したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や法人としての委員会活動、内部研修を行い、全職員の意識を高め徹底している。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所内で実施し職員の共有を図っている。施錠についても身体拘束であることを認識し、玄関前にソファを置き気持ちの切り替えの場を作ったり、認知症ケアに関する「ユマニチュード研修」での学びを実践し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苦情解決委員会、事故解決委員会を中心に全体内部研修を行い虐待に関する勉強会、虐待防止の自己点検シートも行い、全職員の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町のケアマネ会議に参加し成年後見制度の知識、事例を通しての研修会に参加し全職員に報告し、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、契約書、重要事項説明書の内容を読み上げ分かりやすく説明し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との個人面談を年2回実施しており、ざっくばらんに意見や要望を話し合い、また運営推進会議でも外部の委員を含め話し合い運営に反映している。	思いや意向が表し難い利用者には、嫌な事・好きな事を把握し利用者主体の運営に結び付ける努力が為されている。家族には毎月の広報誌を通し、管理者より法人方針や動向について発信している。家族からは率直な意見を言ってもらえるよう個人面談の機会を年2回設け、意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者とそれぞれ年2回面談を行っている。また年2回食事会を行い職員間の交流が出来るようにしている。	ミーティングや勉強会、食事会、個人面談を行い職員意見を聞いている。利用者と職員が馴染みの関係を保つことを重視し、管理者は介護現場における人手不足の現状も伝えつつ、現場の意見を聞き勤務体制や異動を検討しており、離職者が少ない事業所である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長の職員個人面談を年2回の実施、管理者、主任による面談を年3回実施している。個人管理表に基づいて、職員個々の状態把握し、職場環境を良くするように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人管理表を作成するために、各職員との面談を行い、本年の課題と重点テーマを設定する。新人研修は、トレーナー制度を活用して職員の質を向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設を見学し同業者と情報交換し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情から職員が声をかけ困っていることや不安なこと等を傾聴し、受けとめ共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時には、家族の状況や困っている事、不安な事等を十分に傾聴し受け止めている。入居者によっては、慣れるまで時間がかかるので家族との関係を密にしていかなければならない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを利用していた方には、担当ケアマネより情報を得ている。包括支援センターや居宅ケアマネと連携し必要としている援助を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に生活しているという姿勢を持ち、笑顔を忘れず、寄り添いながら作業をお願いしたり、知恵を伺ったりと安心できるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回家族との面談を実施すると共に、入居者のIADLの変化等を敏感に察知して電話連絡等必要に応じて日頃より家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や近所の方が面会に来られている。また自宅に外泊している方もいる。	入所前から交流していた方との手紙のやり取りが続いている。また、自営をしていた方が外出した折には、馴染みの方との出会いを企画し感激した場面もある。近所の方の面会も常時あり、自宅への外泊も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性を常に見守り、入居者同士で会話が楽しめるようサポートしている。入居者同士の間をうまく取り持ちながら共に支えあえるような関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	フローまつりのお知らせを出したり、入院、退居後も連絡を取ったり、今後の相談を受け助言支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、部屋で編み物を行う方等一人ひとりの生活歴を知り、家族の意向を把握し、困難な場合は職員が援助している。	今まで生きてきた本人の生活歴を把握し、一人ひとりがどうすれば本人らしく暮らしていけるのかを職員全員が関心を持ち支援している。意向が表し難い方には、日々の関わりの中で声をかけ言葉や表情から確認し、家族や関係者からの情報も踏まえ「本人はどうか」の視点に立ち意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より情報を収集している。担当していたケアマネや包括支援センターと連携を図り実態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体ミーティング時や週ミーティング時にその都度全職員が気づいた事、状況を話し合い現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と面談し意見や要望等をお聞きし、また利用者の現状を基に全職員よりアンケートで意見を聞き取り全体会議で検討し話しあった結果をまとめ、計画書を作成している。	日々の関わりの中から本人の意向や課題を取りあげ、家族の意向も来訪時面談により確認している。全体会議前に職員にアンケートを行い検討しあった結果をまとめ、計画書を作成している。介護側にとっての課題ではなく、本人がよりよく暮らすための課題やケア計画である事に留意している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を事細かく具体的に記入し、毎朝当直の職員に申し送りを行っている。また面会シートや面談時の記録等を閲覧し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋のショート利用サービスを行っている。施設全体で実施している合同イベントやクラブ活動の参加等要望に合わせて実施している。また通院介助、外出、外食イベントを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校の行事に参加したり、保育園や地域ボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診時、利用者の日常の様子や出来事を記入した通院シートをご家族に渡し説明している。ドクターからの返信もしくはご家族から聞き取り説明を受け連携を取っている。	利用者すべてが希望するかかりつけ医の受診となっている。受診時は「通院シート」を作成し、日々のホームでの様子や医師に確認したいことを事業所が記入し、医師からもシート上に返事をもらうよう工夫が為されている。かかりつけ医の受診支援につとめ連携が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での情報や気づきを記録に残し、看護師と連携をとり相談しながら適切な受診や健康管理のアドバイスを受けながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時、担当の看護師等に会い現在の状況や状態把握を行い、退院に向けて主治医の意見を聞いて頂いたり、ケアワーカーに条件等を伝えたりサマリーを頂いてる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関し、医師との協力が得られない為、契約時に当施設では看取りは行なわれていないことを明確にし説明して理解を頂いている。職員間では、「看取り」に関する勉強会を行っています。	現在事業所でできることを明確にし家族に説明している。看取りについては、医療機関との協力体制に課題があり、町の担当者に事業所側が直接働きかけをしている現状がある。事業所としては「看取り」に対する勉強会も行っており、重度化や終末期に向けて前向きな支援をしていく意向がある。	事業所は、かかりつけ医との連携の工夫や町の担当者に医療機関の協力について働きかけも行っている。今後は終末期支援体制に向け考え方の整理を行い、本人の意向にそった最期を支援できるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年3回リスクマネジメントを実施し勉強している。急変時のファイルを作成し、更新を行い職員に回覧し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けて、年2回の消防訓練を行っている。火災・地震対応マニュアルを作成している。地域や地元の方々に協力の呼びかけを行っている。施設駐車場に防災倉庫があり、テントや炊き出し等に使う備品がある。	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て利用者とともに避難訓練を行っている。東日本大震災の教訓から防災倉庫を設置し、備蓄やテント、炊き出し用具の備品も備えている。災害時の避難所の拠点となるよう、地域にも働きかけを行っている。	福祉の専門職としての知識や経験を活かして、災害発生時には地域の避難拠点として活用出来ることをPRする等、地域への働きかけを期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した言葉かけや誇りを汚さない配慮をしている。会議時に言葉かけについて、汚さないように話している。「心構えチェック」を実施している。	事業所には「心構えチェック表」や「接遇チェック表」がある。それらチェックシートの評価を基に日々のケアに活かしている。また、一人ひとりの生活歴の把握に努め、その方がどのように暮らしてきたか、何を大切にしてきたか、守ってあげることは何かの視点を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、イベントやクラブ活動・室内レク等への参加の声をかけを行い自己決定して頂いてる。昼食会や外食時のメニューの選択もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に希望を尊重し、一人ひとりのペースに合わせなるべく自由にその人らしく暮らせるよう心掛け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がカットしている方や、美容室で来て頂きカットしている方等希望に応じて支援している。入浴準備時、本人と一緒に衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食器等の片付けを行っている。使い慣れた食器やお箸を使用している。	畑で栽培した野菜を採る方、下ごしらえをする方、調理の補助をする方等、利用者それぞれの力量に合わせて食事の準備・調理にも参加している。職員も共に食卓に着き食事をとっている。手作りおやつや出前による食事、外食に出かけるなど、一番の楽しみである食べることに関し、意向を大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を活用し、状況の把握に努めている。水分量が少ない方には、スポーツ飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ実施している。週1回入れ歯洗浄剤を使用し洗浄している。又本人の希望や口腔内の状況により訪問歯科の受診も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表を基にトイレの訴えのない人には声かけ誘導を行っている。トイレ時は見守り介助を行っている。	病院では寝たきりで排泄に全介助が必要であったが、入居後トイレでの排泄が出来るようになった方がいる。一人ひとり毎日の食事量・水分量を知り、排泄のタイミングをつかみ、さりげない声掛けを行いトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し、下剤を使用している入居者もいるが、水分補給やラジオ体操の実施、お腹のマッサージや温めたりと個々に応じた予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の入浴の希望を確認し、湯船でゆっくりできるように介助している。四季を感じて頂くよう入浴剤を使用している。	リラックスして入浴出来るように、本人の好みの温度や湯量を聴き個別に対応している。週5回の入浴ができるので、希望も聴きながら行っている。お風呂は職員とゆっくり話ができる時間であり、日常では得られない本人からの話に耳を傾けるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクや散歩等の生活リズムを心掛けている。寝具は使い慣れた物を使用して頂いてる。2時間毎の巡視も睡眠を妨げないように行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表をいつでも確認できるようファイルにて管理している。服薬時は声出し本人確認等きちんと飲めたかも確認し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の出来ることを把握し食器拭き、洗濯たみ、掃除等役割を持っていただけるようにしている。合唱、散歩、クラグ等参加の希望に合わせた支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、本人の希望に沿って散歩へ行ったり、季節ごとのイベントを企画しており、地域の方々との交流したり、外出支援等行い気分転換して頂いてる。	隣接のケアハウスやデイサービス利用者とは日常的に交流があり、季節ごとのイベントにも参加している。デイサービスの車いすリフト車を借り、道の駅や買い物に常時出かけている。近くの元気アップ村には、花見時期に弁当を持って散歩に出かけている。また押し花クラブで作った「世界で一つだけの作品」の展示もあり楽しみに足を運んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かっている為、外出時お金を渡して、自由に買い物して頂けるよう見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝掃除をしている他、汚れに気付いた時にはその都度掃除をしている。館内には、季節に合わせた花や作成した作品を飾っている。館内に温湿度計があり毎日2回確認している。	リビングが広く明るい。大きな2面の窓に沿ってダイニングテーブルが置かれ、窓からは田畑の四季が見渡せる。くつろげる炬燵もあり横にもなれる。フロアにはソファが要所に置かれ、交流や安心できる居場所を作っている。2階との昇降機は安全性も兼ねた使用となっている。また、階段の利用は、生活の中での注意力や足腰等機能の維持を図る	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には、イスやソファがあり、畳スペースには炬燵があり一人ひとりが思う様に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を使用し、本人や家族と一緒に家具やベットの配置変更している。部屋には写真やクラブ作品を飾っている方もいる。	入居時に、壁紙やカーテンの色を個々に選び希望の色にリフォームすることが出来るように配慮している。好みの物や馴染んだ家具の持ち込みに際しては、本人や家族と一緒に身体の機能を考慮しながら、配置を工夫している。生活歴を大切に、自分の居場所として落ち着けるようプライバシー空間にもさりげない配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、表札やクラブ作品を飾り付けをしたり、トイレには「トイレ」と書いてあり、分かりやすいようにしている。ホワイトボードには、クラブ活動・イベント等1ヶ月の予定が記入されている。		